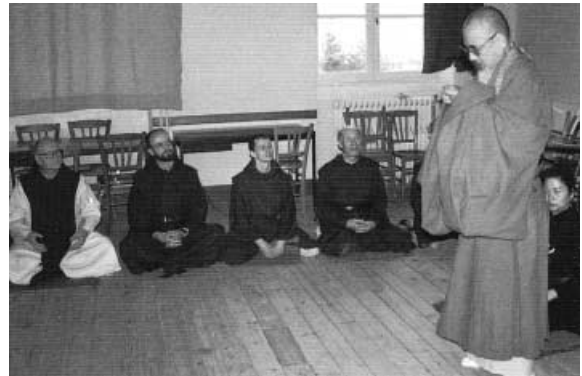


FAITH

花園大学教授、埼玉大学名誉教授
月刊誌「大乘禅」主幹

あき つき りょう みん
秋月 龍珉

1921年、宮崎市生まれ。東京大学文学部哲学科卒業。同大学院修了。著書に、『秋月龍珉著作集』全15巻、『道元入門』『公案—実践的禅入門』『禅門の異流—一休・正三・盤珪・良寛』『禅仏教とは何か』『世界の禅者—鈴木大拙の生涯』『正法眼蔵を読む』『新大乘—仏教のポストモダン』など多数。共著に八木誠一博士との宗教哲学討論集『親鸞とパウロ』『禅とイエス・キリスト』『ダンマが露わになるとき』など。



フランスのシトー修道院を訪う

(一)

フランスのブルゴーニュにトラピスト修道会のシトー大修道院を訪ねた。ここ20年近く、日本の禅僧がヨーロッパの修道院に一カ月生活し、ヨーロッパの修道士が日本の禅寺で一カ月生活するという、「東西霊性交渉」の試みが4年ごとに行われている。

しかし、トラピスト修道会はまだその動きに正式に参加していないという。東機質社長の佐多(保彦)さんが、ブルゴーニュに古いお城を求めて大改装し、近代的なシャトーホテルとして経営している関係で、縁をつけられた、シトー大修道院で一晩修道士各位に禅仏教の講義をし、翌朝のミサの後で希望の修道士に坐禅を指導した。日本からご一緒した作多さんが設定した「心の旅」の人々も、そのほとんどがはじめて坐禅を体験することになった。

そんなわけで、坐禅のモデルに困った。幸い同行の黒沢吾耶女史は、フランス人の前でスプーン曲げをして見せた人だ。スプーンが曲げられるのだから、自分の体ぐらいわけなく自由になるだろうと言って、坐禅のモデルになってもらった。例のように、簡易体操で、身体を柔軟にしたうえで、『坐禅儀』どおりの坐禅の組み方を説明した。吾耶女史は初めてだというのに、見事な坐禅の形を見せてくれた。その後で、私はこれも例によって八段錦の二、三の型を「動く禅」と称して、みんなとともにやった。みんな熱心だった。

後で、二、三の修道士は言った。「ラサール神父の本などで坐禅のことは知っていました。しかし、きょう習った坐禅の前と後の体操は、とてもすばらしかった。あれはどんな本で学べますか」と。

準備体操は、左保田鶴治先生のヨーガの基本。立禅は、藤平光一師範の心身統一合気道の教え。そして動く禅としての八段錦は揚名時先生の気功法である。日本人はこんなことは知ってはいるが、いつでも習えると思ってか、自分で進んで学ぼうとはしない。しかし、欧米の方々は東洋の知恵として心より貴ぶ。

(二)

前の晩に私が語った禅仏教についての話は、いずれ活字にしたいと思う。ここには一つだけ、「坐禅」について私はこう説明した。

ラサール神父は、「神人合一」の境地に人りたい

ために東洋の坐禅を学ぶ、というところから禅に入った。晩年に三宝教団で参禅を始めた愛宮(えのみや)神父については、私には批判がある。ともあれ、私は禅仏教はインド仏教正統の「梵我一如」説とは根本的に異なる宗教だと考えるから、神人合一について語らない。禅者は仏(ないし神)も衆生(ないし人)も、迷った衆生の描いた「相(フォルム)」にすぎないと見る。「仏」もなく、「衆生」もなく、あるのはただ「一心」だけだとして、ただその「一心」(仏心=仏性)だけを「直指人心(じきしじんしん)」する。だから、人間が神と合一する「神人合一」など、まったく考えない。神もない、人もない、という、不思議な妄説だと考えられるかも知れない。しかし、それは『新約聖書』にいう「インマヌエル」(神、われらとともに在す)ということである。神というの人も人間というの、人間の考えた観念である。即今・此処・自己という人間の真実存在(実在)は、ただ「神、われらとともに在す」という「インマヌエル」の原事実だけである。聖なる神というのも罪なる人というのも、そこから抽象された人間の描いた「相」にすぎない。

だから、神と人とは区別はできる(不可同)が切り離すことはできない(不可分)。そして区別する以上、神は先で人は後でこの間の秩序は逆にできない(不可逆)。仏教者は、この「インマヌエル」なる実存の原事実を、「法」(ダルマ)と呼ぶ。では、この「法」はいつ、どこで露わになるか。仏教徒は言う、それは「無我」(空)のときである。その自我否定の無我なる場所が、「坐禅」である。禅定(坐禅)とは無我の現成のことだからである。

「神を見た者は死ぬ」とキリスト者は言う。そうした神すなわち「絶対無」(絶対否定)に出逢うのが、坐禅である。自我を育てて大我にする神人合一とは断じて違う。

(三)

後日、修道士の一人が佐多さん宛に手紙をくれた。

「私にとりまして、秋月老師は聖人であり、厳格な修道士であり、そして当代の案内人であります。老師の小さな鐘(引磬)の純粋な音色は絶対の探求者であります私たちとあなた方との一体感のシンボルとなっています。」「20年待ち望んでまいりましたすばらしい贈り物に対し御礼申し上げます。」